

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 023	提案機関名 湘南農業協同組合
要望問題名 果樹・野菜のカメムシ防除対策技術の確立について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 当JA管内は、ナシ、ブドウ、カキ等の果樹やナス、エダマメ等の露地野菜が栽培され、生産者も多く、有数の産地である。しかしながら、令和5年、6年産は、暖冬によるカメムシ成虫越冬数の増加やスギ・ヒノキの毬果の豊作によりカメムシが大発生し、カメムシの加害により品質が低下し収量が減少した。令和7年もカメムシの大発生による被害が懸念されている。 対策として、農業技術センターの病虫害情報に基づいた定期的な防除を指導したが、被害を抑えきれなかった。今後も、暖冬やスギ・ヒノキの毬果豊作が続く恐れがあることから、カメムシ防除対策技術の確立について検討願いたい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	果樹カメムシ類においては、薬剤抵抗性の発達の報告は現在まで全国的になく、また、発生量と発生時期の高精度の予測が病虫害防除部によってなされております。また、アオクサカメムシやホソヘリカメムシといった野菜類を加害するカメムシ類につきましても、薬剤抵抗性が発達しているとの報告はなく、複数の効果の高い薬剤が登録されています。まずは生産者に適切な時期と頻度で薬剤散布を行っていただくことが重要です。農協から生産者へ適切なタイミングでの薬剤散布のご指導をして頂くとともに、普及指導部門からも生産者へ指導いたします。 また、果樹カメムシ類に対しては多目的防災網の設置や果実袋の利用も被害防止に効果が認められますので、作目に合わせてこれら技術の利用もご検討ください。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			